自由論題報告

プロサッカーの移籍金の経営学

西崎信男（上武大学）

本発表は有名選手移籍事例をケーススタディーとしてプロサッカーリーグにおける移籍契約の仕組みの基本を明らかにすることを目的とする。

2017年8月驚きのニュースが世界を駆け巡った。スペイン・バルセロナ（Barcelona）のFWネイマール選手（Neymar）がフランスのパリ・サンジェルマン（Paris St.Germain）に2億ポンド（280億円@Y140）という空前の高額の移籍金で移籍したからである。

プロサッカーは選手をクラブに一生縛り付ける保有・移籍システムが英国で違法と判決が出される(1963年)まで、選手は安い報酬で働くことを余儀なくされた。さらに、クラブは勝利優先で利益を挙げることは二の次とされていたため赤字経営で、選手の移籍金・年俸は低かった。それが1992年に英・プレミアリーグの創設、1990年代中盤以降急成長するスポーツチャンネルのキラークンテンツとしてサッカーが高く評価され、高額の放映権料が流入したこと、ボスマン判決(1995年)で契約期間後であれば英国を含むEU圏内の選手の移籍が自由となったことで、選手の引き抜き競争が激化しクラブ間の移籍金や選手年俸が急騰し止まるところを知らない。

EUの「統合のシンボル」としてサッカーは高い位置づけを与えられてきた。それが選手引き抜き競争で、クラブの経営が悪化し倒産する危険性を避けるために、「フィナンシャル・フェア・プレー（Financial Fair Play）規制」が2011/12シーズンから段階的に導入された。すなわちチャンピオンズリーグやヨーロッパリーグ等の欧州リーグに出場するUEFA(ヨーロッパサッカー連盟)のクラブに適用されているサッカークラブの財務上のガバナンス強化を進める規制である。その目的は、欧州のクラブに公平な(fair)競争を促すために、支出と収入のより持続可能な均衡を達成させることである。違反すればペナルティを課されるが、実際に事例も発生してい

る。なお、この規制は、米国のメジャーリーグサッカー（MLS）や中国スーパーリーグのクラブには適用されない問題もある。

有名選手の場合には、特約条項を設定することによってクラブ間で高額の移籍金が動くと同時に、選手の年俸も高額な契約が目白押しとなっている。試合だけではなく、選手の移籍動向を知ることはファンにとって大いに興味をそそられるプロサッカービジネスのサービスのひとつである。しかし、契約の仕組みを解説した文献は見当たらない。そこで以下の点も含めて、基本的な仕組みを研究したい。

- （１）権利放棄条項（release clause）
- （２）買取条項（buy-out clause）
- （３）転売保障条項（Sell-on clause）
- （４）移籍要求（transfer request）
- （５）契約延長ボーナス（renewal bonus）
- （６）永年勤続手当(loyalty bonus)
- （７）自由契約（move on a free）等